

令和4年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	49	学校名	県立土浦湖北高等学校				課程	全日制普通科			学校長名	山 田 伸 一				
教頭名	川 上 弘										事務長名	鈴 木 有 美				
教職員数	教諭	43	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	2	養護教諭 養護教諭	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	59
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計人数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	18			
	普 通 科		114	118	102	105	101	134			317	357	674			

2 目指す学校像

- ・文武両道を柱とする活力ある進学校
- ・校訓である「自律・創造・奉仕」の実践を通して、地域・社会に貢献する人材育成
- ・信頼と魅力あふれる開かれた学校

3 三つの方針（スクールポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○文武両道に励み、多彩な部活動で健やかな心身を育成します。 ○地域社会を輝かせる人材として、郷土を愛する心を育成します。 ○人権を尊重し、他者を思いやる心と道徳的実践力を育成します。
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○確かな学力を育み、国公立大学進学を目指すための思考、判断、表現の充実を図ります。 ○ＩＣＴを活用し、探究心を高め他者と協働する学習を展開します。 ○文理の選択によって、進路希望を実現するための学力を身に付けます。

「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○探究心を持って学業と諸活動に積極的に取り組み文武両道を目指す生徒。 ○他者とコミュニケーションを図り、積極的に協働しようとする生徒。 ○社会に貢献する意欲を持ち、リーダーとして活躍する生徒。
-----------------------------------	---

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学 習 指 導	多くの生徒が授業に真剣に臨み、放課後の進学課外授業に積極的に参加している。しかし、全生徒の平日の平均家庭学習時間は52.6分、家庭学習を「ほとんどしない」と回答した割合は25.8%であった。4分の1の生徒が家庭学習の習慣が定着しているとは言い難い状況にある。	・あきらめずに学び続ける生徒を育成するための授業実践が必要である。 ・主体的・対話的で深い学びの視点による授業研究を継続する必要がある。
進 路 指 導	令和4年3月卒業生の進学実績は86.0%(大学・短大53.8%、専門学校等35.8%)で、年度当初の希望に対し大学・短大が6.6%の増加、専門学校等が0.4%の増加となった。総合型選抜や学校推薦型選抜を利用する生徒が年々増加する傾向にある。最後まで諦めず一般選抜に挑戦する生徒が少ない。	・生徒の進路意識を高め、進路目標を明確にし、目標実現のために努力を継続させる指導を行う必要がある。 ・自分で決めて、決めたことに責任を持てる進路意識の高い生徒を育成する必要がある。
生 徒 指 導	生活態度に大きな問題のない生徒が多いが、服装・頭髪や交通マナー等の規範意識が低い生徒もいる。	・規範意識を高め社会性を育成するため指導の工夫と継続の必要がある。
特 別 活 動	部活動は活発で、成果も上がっている。生徒会行事等も多彩で積極的に活動している。校外活動等の機会も増えてきており、生徒会役員を中心に活発に活動している。	・様々な対象に感謝する気持ちを持てる生徒を育成するために、奉仕活動などの機会を設けたり、体験的活動を導入したりする必要がある。
働き方改革	業務の平準化が進まず、一部の教員に過重な負担がかかっている。部活動指導や成績処理、年度初めや年度末に業務が集中してしまう傾向にある。	教職員の意識改革を行い、協働意識の醸成を図り、チームとしての職場環境作りを行う必要がある。

5 中期的目標

- 1 自ら学習する態度を育成し、学び続ける生徒の育成を目指す。
- 2 生徒一人一人に応じた進路指導を充実させ、自分で決められる生徒を育成する。
- 3 規範意識および安全に関する意識を高める。
- 4 素直に感謝する気持ちを育て、豊かな人間性・社会性を身に付けさせる。
- 5 信頼と活力を生む開かれた学校づくりを推進する。
- 6 服務規律を遵守し、地域社会から信頼される教職員を目指す。
- 7 学校におけるカリキュラム・マネジメントを図り、働き方改革を一層推進する。
- 8 ICT の活用により、教育における質的向上を図る。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 学び続ける態度の育成と学力向上	①学び続ける態度の基本となる予習と復習を徹底させ、家庭学習ゼロをなくす。 ②わかる授業を目指し、言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実践を継続し、授業改善に取り組む。 ③年間指導計画を活用した学習指導の充実と評価の改善を継続する。
2 自分で決められる生徒の育成を目指し、それを支援するための個に応じた 進路指導の充実	④面談指導を重ね、生徒の自己理解と早期の目標設定を推進する。 ⑤進路学習、就業体験を通して、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ⑥進路ガイダンス・大学見学会・外部模試の活用を通して、入りたい学校に積極的に挑戦する心を涵養する。 ⑦課外等を通して粘り強くあきらめない学習者の育成を図る。
3 規範意識及び安全に関する態度の育成	⑧ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。 ⑨登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。 ⑩スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。 ⑪家庭・地域社会及び関係機関と連携し、情報の共有を図り、事故の未然防止に努力する。

4 キャリアパスポートを活用し、様々な場面で様々な対象に素直に感謝する気持ちを育み、豊かな人間性・社会性を身に付けさせるなど、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成する。	⑫ホームルーム活動を充実させ、互いに認め合い、支え励まし合う生徒を育む。その中で3学年統一したシステムを使用し、特別活動及びホームルーム活動、加えて各教科等の学習状況やキャリア形成を見通し、振り返る事で、自身の変容や成長を自己評価させる。 ⑬特別活動を活性化し、学校行事・ボランティア活動の充実に努め、生徒の主体的に取り組む姿勢を涵養し、湖北生としての自信と誇りを持った生徒の育成を目指す。 ⑭道徳・教育相談を充実し、相手の気持ちになって考え、命の大切さがわかる生徒を育成し、いじめのない安心な学校作りをする。
5 信頼と活力を生む開かれた学校づくりの推進	⑮保護者、地域社会及び中学校等に対する広報活動の充実に努める。 ⑯学校 Web ページ、県のフォトニュース、進路ニュース、学年通信等を活用して、積極的な情報提供に努める。 ⑰教育活動を公開するとともに、外部評価や広聴活動により取組の改善に努める。
6 服務規律を遵守し、地域・生徒・保護者から信頼される教職員	⑱日頃のコミュニケーション等を通して教職員の良好な関係を作り、学校諸課題に「チーム」として対応する組織作りをさらに進める。 ⑲職員研修の充実をはかり、常にコンプライアンス意識を持って行動する教職員を目指す。 ⑳PDCA サイクルによる評価・改善を行いながら働きやすい職場作りに努め、働き方改革を推進する。
7 働き方改革による業務の効率化	㉑コロナ禍における学校行事の精選を図り、業務の見直しを推進する。 ㉒部活動の精選や複数顧問制、外部コーチの委託などを積極的に進め、教員の過重な負担の軽減につとめる。 ㉓ノー残業デー、長期休業中の時差出勤の推進や「きんむ君」による教職員の勤務実態の把握に努めることで、教職員の適正な勤務環境の確立を目指す。
8 学校業務におけるICTの活用化	㉔授業においてICTを効果的に活用し、個の理解や関心の程度に応じた学びを構築する。 ㉕タブレット端末を積極的に活用することで、生徒の調査活動における情報処理能力や活用能力の向上につとめる。 ㉖学校HPの充実や緊急情報メールを活用し、学校と生徒・保護者、地域社会との情報共有を図り、一層の信頼関係の構築と連携に努める。 ㉗ICTの活用により、職員会議・成績処理・教材準備の効率化を図る。